

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育力・組織力・企画力を構成要素とする「学校力」のさらなる向上を図ることにより、生徒一人ひとりの個性・能力を最大限に伸ばすとともに、自ら目標を定め、その実現に向けて全力で努力する生徒を育てる。

1. 学習指導・進路保障体制の一層の充実により、「生徒を伸ばし、伸びいく学校」をめざす
2. 主体的・自律的な努力を怠らず、自己の向上に努める生徒を育成する、「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」をめざす
3. 自己表現力、コミュニケーション能力を育て、国際社会で活躍する人材を育成する、「グローバルに考え、行動する学校」をめざす

2 中期的目標

【次なる 50 年に向かって颯爽と】

→ 平成 24 年に 50 周年を迎えたことを踏まえ、これまでの伝統の継承・さらなる発展と、より多くの「颯爽」たる若者（枚方高校校歌の一節「颯爽たり 枚方」に因む）を育てていくことへの決意を込めて、これを合言葉としたい。

1 「生徒を伸ばし、伸びいく学校」の実現に向けて

- (1) 生徒一人ひとりが、自己実現を果たしていくために必要な「確かな学力」を身に付けることができるよう、全教員の「授業力向上」に取り組む。
 - ・各教科において一層明確な「学習到達目標」を設定し、指導と一体のものとして毎年度検証、改善していけるシステムを構築。まず英数国から「枚高マップ」をもとにした「教科スタンダード」を作成し、指導の指標としていきたい。他教科についても、順次作成し、活用をめざしていく。
 - また、平成 29 年度入学生から「総合的な学習の時間」を各学年に配当し、新カリキュラムを意識した主体的な学びを構築していく。
 - ・ICTの積極的活用の推進等を含めた「今後における新しい授業のあり方」についての校内研修をさらに充実させ、学校全体の取組みに発展させる。この取組み等により、平成 31 年度までに、学校教育自己診断（以下「自己診断」という。）における「教え方に工夫している先生が多い」の肯定率を 75%以上に（H28 年度 73%）するとともに、授業アンケートにおける満足度を 3.10 以上に。（※「満足度」とは、授業アンケート「問 8 授業内容に興味・関心を持つことができた」及び「問 9 知識・技能が身に付いた」についての全教員の評価平均（4 点満点）、H28 年度 7 月調査 3.08 12 月調査 3.08）
- (2) 夢と志を持つ生徒の育成を図るとともに進路保障体制をさらに充実させる。
 - ・最後まであきらめずにチャレンジする生徒を育てることにより、平成 31 年度には現役生の国公立大学合格者を 10 人以上に（H28 年度 5 人）。
 - ・生徒支援体制を一層充実させ、自己診断における「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率を平成 31 年度には 75%以上に（H28 年度 63%）。
 - ・キャリア教育・人権教育・国際理解教育等を 3 年間で体系的に実施できるよう、平成 29 年度入学生から、総合的な学習の時間を抜本的に改善。
 - ・生徒の表現力を高め、創造力をより豊かなものにしていくため、教科を問わず読書指導を推進する。

2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現に向けて

- (1) 学校行事の充実、部活動の活性化を図る。
 - ・学校行事については、生徒の主体的な取組みを一層支援し、自己診断における「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率 90%以上を達成し、維持していく（H28 年度は 89%）。
 - ・部活動加入率について、平成 31 年度には 80%以上を達成するとともに、一層の増加をめざす（H28 年度 5 月調査 75%）
- (2) 生活規律を確立させる取組みを充実させる。
 - ・遅刻者数について、年間 1,000 未満を維持するとともに、一層の減少に向けて、指導を継続していく。（H28 年度 749）
 - ・制服の着こなし等、身だしなみに関する指導の充実、自転車の乗車マナーを含めた交通安全指導の充実を図る。

3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現に向けて

- (1) 授業だけでなく、教育活動の様々な場面において、「使える英語力」の伸長を図る。
 - ・大学等の協力を得て、英語暗誦弁論大会を充実させ、「イングリッシュキャンプ」等の取組みを継続的に実施できる環境を整備する。
 - ・英語検定、TOEIC 等の受検を推奨するとともに、それに向けた準備講習等を計画的に実施するなどして、本校在学中に英検 2 級に合格する生徒の数を平成 31 年度には 30 人以上に（平成 28 年度卒業生 9 人）。新たな国際教養科の内容の充実と、魅力を高めるための工夫の検討を行う。
- (2) ユネスコ・スクールとしての取組みを更に充実させるとともに、国際交流・異文化理解教育の活性化を図り、世界規模で考え、行動できる人材を育成する。
 - ・ユネスコ・スクールとしての取組みについて、テーマに応じて生徒会執行部や複数のクラブが主体的に関わっていける活動となるよう、推進していく。

4 教員組織体制の強化と教育環境のさらなる整備

- (1) 学校トータルとしての広報活動を立案・実施する機能の強化。
 - ・渉外・広報に関する校内組織を一層強化。本校の魅力や入学選抜におけるアドミッションポリシー等、必要な情報を積極的に発信していくため、中学校訪問・学校説明会等のさらなる改善や学校 HP の計画的な更新等を進めていく。
- (2) 教育環境の整備とエコ対策の強化を図る。
 - ・学校として短焦点プロジェクターやタブレット PC の活用を推進するとともに、次世代のスタンダードとなる教育施設・設備を可能な限り早期に導入できるよう、あらゆる方策について検討を進める。
 - ・ペーパーレス環境の一層の推進に向けて、校内における連絡体制や各会議のあり方等を見直していく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>わかりやすい授業や主体的な学びなど、生徒を伸ばす取組みを重点として取り組んできた。昨年数字が大きく伸びた反動の分、数字は下がったものもあるが、概ね生徒保護者の理解を得ており、引続き生徒を伸ばす取組みを継続していきたい。</p> <p>1. 概況 (昨年度から改善した項目数) 「◎」「○」「△」は数値またはその変化に対する学校の評価 ・生徒…53 項目中 21 (40%) ・保護者…45 項目中 20 (45%) ・教員…79 項目中 25 (32%)</p> <p>2. 学校 (または組織) に対する意識 (肯定率 (%) H28 → H29 以下同じ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒 (学校に行くのが楽しい) 85.8 → 81.0 (△) ・保護者 (子どもは学校へ行くのを楽しみに) 89.8 → 84.4 (△) ・教員 (教育活動について日常的に話し合い) 86.1 → 84.8 (△) <p>※ 授業や行事など、魅力ある学校づくり、様々な教育課題の共有、改善に向けた取組みの継続が必要。</p> <p>3. 学習指導等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒 (わかりやすく楽しい授業が多い) 63.8 → 61.3 (△) ・〃 (授業で考えをまとめたり発表する機会がある) 65.8 → 75.9 (◎) ・保護者 (授業がわかりやすく楽しいと聞く) 67.6 → 63.8 (△) ・教員 (思考力を重視した問題解決的な学習を実施) 52.4 → 72.7 (◎) <p>※ ICT 機器の活用やグループ学習、主体的で深い学びなど生徒の興味・関心を高める授業が増え、生徒が発表したり積極的に取組む姿勢がみられるなど、新しい取組みが定着してきている。</p> <p>4. 生活指導等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒 (学校は生活規律等の確立に注力) 87.1 → 83.4 (△) ・〃 (先生ははじめについて真剣に対応) 72.7 → 78.4 (◎) ・保護者 (いじめや暴力のない学校づくり) 92.4 → 93.1 (◎) ・教員 (カンセリングマインドを取り入れ指導) 80.6 → 81.8 (○) ・〃 (問題行動に組織的に対応) 91.7 → 84.8 (△) ・〃 (生徒指導において家庭と連携) 91.7 → 93.9 (○) <p>※ 校内の指導体制が定着し、落ち着いた雰囲気や学校運営ができており、保護者の理解もある。また、いじめのない学校、相談しやすい体制づくりなど、支援体制をより充実させていく必要がある。</p> <p>5. 地域連携・広報等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者 (学校は教育情報の提供に努力) 85.8 → 83.9 (△) 	<p>委員構成 6 名 (大学准教授、会社役員、中学校長、小学校長、保育所長、PTA 会長)</p> <p>○第 1 回 (6/19) 「H29 年度学校経営計画について」「教科書選定」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングの取組みについては、小中学校、さらには保育所などでも積極的に行われており、わかったことを他人に伝えられることが重要である。授業アンケートのアンケート項目にも、それに即した新しい観点が必要になってくるのではないかと。 ・外部から生活指導関係の苦情はあるか。→かつてはあったようだが最近ほとんどない。 ・挨拶は人間関係の潤滑油であり、大切にしてほしい。大人もほめられると嬉しいものだから、いいことを言ったあげたほうが楽しいし、生徒の成長にもつながる。 <p>○第 2 回 (11/13) 「授業参観と授業アンケートについて」 (3 年「英語」、1 年「現代社会」、1 年「書道」の授業参観を実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方の授業改善に向けた取組みの工夫が感じられた。 ・ペアワークなどに生徒が積極的に参加しているのが印象的だった。 ・授業を見学し、とてもいい感じである。主体的・能動的に取り組んでいる生徒が多い。こういうことが社会に出たときに必要になるのだと思う。 ・センター試験に代わる新テストの対応策は？→理解力や語学力を問われることになるが、学ぶ内容が変わるわけではないので、それを踏まえた対応をしていきたい。 <p>○第 3 回 (1/29) 「学校経営計画及び学校評価」「授業アンケート」「学校教育自己診断」報告。次年度から「学校協議会」から「学校運営協議会」に移行することについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの結果について、各教員がその評価をどう反映させるかが大切である。授業は大きな声でパフォーマンスを交えるなどして、明るく元気に指導してほしい。生徒にしっかり知識が身に付くよう、わかりやすく楽しい授業になるよう工夫してほしい。 ・施設が新しくなり、環境が変わると子どもの動きもよくなる。教室や学校施設などの環境整備も大切である。 ・外部実習で、生徒が自然と子どもに声をかけたり、思いやりのある姿を見ることができ、すばらしい生徒だと感じた。

府立枚方高等学校

・ // (ホームページは役立っている) ・ 教員 (教育活動に必要な情報の周知に努力) ※ 学校の情報をホームページ、ブログやメルマガでさらにわかりやすく発信する必要がある。	71.6 → 69.0 (△) 84.6 → 87.9 (○)	(最後に) 当日来校している香港・沙田培英中学 (Shatin Pui Ying College) との交流のようすを見学した。
--	------------------------------------	--

府立枚方高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「生徒を伸ばし、伸びいく学校」の実現	(1) 全教員の授業力向上	ア 本校としての学習到達目標を改めて検討・策定した上、全教員が共有し、実践していく。英数国は教科スタンダードを指標として実践。 イ 授業アンケートの結果について、全教員が真摯に受け止めた上で、それぞれが改善に向けて取り組む。 ウ 教員相互の授業見学や他校等の先進的な実践を視察する機会を増やす。加えて、短焦点プロジェクターや書画カメラの活用等に係る研究を進め、実践者を増やす。	ア 各教科の学習到達目標を検討し、シラバスとして策定。 イ 授業アンケートにおける「満足度」の向上 (H28年12月実績3.08) ウ 自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率を75%以上に (H28年73.6%)	ア 学習到達目標を具体化した観点別評価を盛り込んだ新たなシラバスを作成した。(○) イ 第1回授業アンケート(6月実施)では、9項目中7項目で前年度実績を上回った(「総合評価」3.13→3.16、「満足度」3.08→3.10)、第2回(12月実施)では、9項目中8項目上回り(「総合評価」は3.13→3.17、「満足度」は3.08→3.12)となり、改善の成果が実を結びつつある。(◎) ウ ICT機器の活用やグループワークが一般化し、「教え方に工夫…」の肯定率は69.1%。(△)
	(2) 夢と志を持った生徒の育成、進路保障体制のさらなる充実	ア 適切な時期を見定めて、「転換期指導」を充実。(「入学当初の中学生から高校生への転換」、「受験生への転換」等) イ 家庭学習を含め、今後における学習指導のあり方について、授業力向上PTを中心として検討・実践を進めていく。 ウ 学習指導、進路指導の充実・改善に外部模試等を積極的に活用するため、特に節目となる時期の模試については、より多くの生徒の受験を促す。また、各担任の進路指導スキルの一層の向上を図るための研修等を計画的に実施。学習到達目標に合わせた学習指導と進路指導を共有化する。(教科スタンダードの活用) エ 「生徒支援委員会」の組織機能を一層強化するなど、個別の課題等を抱える生徒の支援体制を充実。 オ キャリア教育・人権教育・国際理解教育の一層の充実に向けて、外部講師等の活用など、これまでの実践を継承・発展させるとともに、「総合的な学習の時間」を見直し、新たなカリキュラムとして実践する。 カ 学校として読書活動の推進に取り組む。	ア～ウ 「学力生活実態調査」における生徒の家庭学習時間を平日、休日とも平均60分以上に(H28年1・2年平均平日40分、休日57分)また、同調査における「B2ゾーン」以上の生徒割合を2年生(2回目)で50%以上に(H28年41%) 以上の成果として進学実績を向上させ、現役生国公立大7人以上かつ関関同立80人以上の合格をめざす(H28年度5人、90人) エ 自己診断「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率を70%以上に(H28年63%) オ 新カリキュラムの策定。自己診断「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある、人権について学ぶ機会がある」の肯定率の向上(H28年89%、83%) カ 自己診断(教職員)「学校として読書指導に取り組む」の肯定率を60%以上に(H28年42%)	ア・イ 「学力生活実態調査」において本年度は平日49分、休日73分となり、前年度より大きく増加し、休日は60分を上回った。(◎) また、2年B2ゾーン以上の生徒割合は、41%→41%と昨年並み(△)、B1ゾーン以上の生徒数については、1年生が114→152人、2年生は49→52人と、目標を上回っている。引き続き2学年進級後の落ち込み防止を明確な目標とし、指導の改善を図っていく。国公立大学については3人、関関同立については76人となり、目標に届かなかった。(△) エ 自己診断「悩みや相談に…」の肯定率は昨年より向上し68.2%(+5.0)であった。(△) 生徒支援委員会を23回開催するなど、情報共有と早めの対応を心がけ、個別の対応にあたった。(◎) オ 「将来の進路や生き方について学ぶ機会」については90.0%(+0.8)に、「人権について学ぶ機会」については85.7%(+3.2)と、大きく向上した。1年生「総合的な学習の時間」を学校全体で取り組み、4.27(5点満点)という高い生徒の満足度を得た。(次年度は2学年も改善)(◎)新カリキュラム策定については資料収集の段階である。(△) カ 読書週間などの工夫をしているが、昨年より大きく下がり、33.3%(-8.7)であった。(△)
2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現	(1) 学校行事の充実、部活動の活性化	ア 学校行事及びクラブ活動・生徒会活動の活性化を推進し、生徒のセルフ・エスティームの高揚を図る。 ・「ノークラブデー」など限られた時間を有効利用したクラブの活性化と学習との両立。 ・文化祭・体育祭をさらに生徒主体の行事とするため、企画から運営まで、可能な限り部活動生徒等に担当させる。 ・リーダー講習会の充実 ・あいさつ運動、エコ運動、ユネスコ・スクールとしての取組み等について、生徒会と関係クラブ等が連携できる体制を構築 ・校種間で連携できる機会を確保する。	ア 部活動加入率を3ポイント以上増(H28年75%) 自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率を90%以上に(H28年89%)	ア 部活動加入率は75%だが、部活動は非常に活発に行われており、今年も近畿大会に出場したクラブもある。生徒会や各クラブは、地域の行事にボランティアとして協力したり、支援学校や保育所と交流したりする機会も設けている。(○) 文化祭・体育祭はできる限り生徒主体の企画・運営をさせており、「文化祭・体育祭・修学旅行…」は、限られた期間での準備でもあり、80.4%(-8.6)と評価が下がったが、充実した行事運営はできている。(△)
	(2) 生活規律を確立させる取組み	ア 生活規律を重視する指導を明確化し、生徒・保護者の一層の理解を得る。 ・遅刻指導の継続 ・服装指導、頭髪指導の継続 ・交通安全指導の充実	ア 年間総遅刻者数1,000人未満維持(H28年度749人) 自己診断「指導に納得・共感」の肯定率向上(H28年生徒72%、保護者90%)	ア 今年度も日々の登校指導に取り組み、生活規律の徹底が定着し、年間総遅刻者数については644人(昨年比14%減)であった。(◎) 自己診断(生徒)「先生の指導には納得できる」は67.6%で-4.4、自己診断(保護者)「生徒指導の方針に共感」は84.2%で-5.5ポイント低下。(△)
3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現	(1) 「使える英語力」の伸長	ア 英検やTOEIC等受験に向けた対策講習を実施するなど、「使える英語力」向上のための研究(指導法の改善、ICT機器の活用等)を進める。 イ 新カリキュラムの検討にあわせ、これまで実践してきた国際教養科ならではの取組みを再検証した上、一層の改善を進める。	ア・イ 英検等(TOEIC、TOEFL)の合格者数の増加(H28年度卒業生の在籍期間における2級合格9人、準2級合格35人)	ア・イ H29年度卒業生については、継続的に講習に取り組んだ成果等により、2級合格33名、準2級合格53名となった。(◎) 府立高校国際関係学科設置校による「インターナショナルフェスティバル2018」に生徒4名が参加。例年通り、英語暗誦弁論大会を実施。(○)
	(2) ユネスコ・スクールとしての取組みの充実・国際交流活動の活性化	ア 海外修学旅行及び海外語学研修のさらなる充実、姉妹校との交流の推進。 イ ユネスコ・スクールとしての活動を一層充実させるとともに、適切に情報発信。 ウ 異文化理解の推進に向けて、外部講師等を活用した講演やゲストティーチャーによる授業等を各学年で実施。	ア 事後のアンケート結果等の分析(修学旅行アンケート:全体評価H28年・97%) イ・ウ 大学・地域等と連携した取組みの継続、充実。 自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率90%を維持(H28年96%)	ア 今年も交流校への語学研修を実施し、成果を、「海外滞在研修報告書」として取りまとめた。(◎) 12月の台湾修学旅行で、現地の高級中学と昨年以上の有意義な交流ができた。事後のアンケートで、93%の生徒が有意義な学校交流となったと回答。(◎) イ・ウ 「国際交流活動が活発」について、今年はオーストラリアからの来校がなく、香港の高校の来校が1月下旬とアンケート後になり、86.7%(-9.8)と大きく下まった。(△)地元大学からのインターンシップを受け入れる一方、英語弁論大会での支援を受けるなど連携を継続。(○)
4 教員組織体制強化と環境整備	(1) 広報活動の一層の充実	ア 広報に関する業務を分掌機能の中に明確に位置づけることで、学校トータルとしての広報機能を充実。 イ 学校説明会の一層の充実及び中学校等が主催する進学説明会への積極的参加を推進。 ウ 「枚高メルマガ」「ブログ」等の活用により、保護者への情報発信を一層充実させる。	ア・イ 志願者の確保(H29年度選抜の志願倍率1.21倍) 学校説明会の参加者数1,200人以上を維持(H28年は約1,500人) ウ 自己診断「枚高メルマガは役立っている」の肯定率向上(H28年77%)	ア・イ H30年度選抜については、8クラス募集で、倍率が1.33倍となり、志願者を確保できた。(◎)学校説明会については、今年度も事前申込みなしで希望者全員を受け入れる形で実施した。2日間で計1490人が来校、ほぼ昨年並みであった。(◎) ウ 自己診断の「枚高メルマガは役立っている」の肯定率は、機器の不調で数か月送信できず、数字は少し下がった。(H29年75.5%-1.5)(△)

府立枚方高等学校

(2) 教育環境のさらなる改善・充実	ア ICT機器の充実、授業での活用の工夫。 イ 会議室でのプロジェクター活用、校内インターネットの活用促進などで、ペーパーレス環境を一層推進。	ア ICT機器を充実させ、授業での活用を促進し、授業改善につなげる。(ICT活用:90.7%) イ 職員会議を原則としてペーパーレス化	ア 短焦点プロジェクター等を増やし、ICT機器を用いた授業が定着してきた。生徒：授業などでICT機器を活用している。90.7→88.1(△) イ Sドライブやプロジェクター使用により、職員会議のペーパーレス化を促進した。(○)
--------------------	--	--	--